

加盟団体各位
役員各位

7月に入って事故報告が2件ありました。本連盟では毎年「つま恋カップ」初日を安全の日、11月を「安全月間」とする採択をいただきまして、4年が経過しました。しかしながら、高校の部活中の事故や練習中の暴発により矢が場外に飛び出し民家当たった事故が発生しています。幸い大事に至ってはいませんが、部活中・競技会中の事故は常に危険を孕んでいるという証です。

本連盟は、当該県に対して、緊急に対策を講じるよう命じました。日頃の練習時の事故であり、「ついうっかり」「まあいいだろう」「無関心」が事故に共通した問題と言えます。日頃から十分な注意と配慮、そして問題意識を持つことが事故防止につながります。事故等の概略を開示いたしますので関係者全員が、自分のこととしてご理解いただき、事故の根絶に向けて安全のための指導・管理に生かして下さいをお願いします。

記

射場の保安整備

- ・活動前の安全確認の点検(点検場所・点検項目)を明確化し、不良個所の発見時・確認時の対応を、部員全員が確認しておく。

弓具の安全点検

- ・使用前の点検を日課とし、些細な不良箇所も見逃さないで、弓具は常に安全に使えるよう、自己の責任で手入れをする。

以上

事例1

発生日 平成 ~~2025~~ 年 7月 10日

部活動練習中に、矢がアーチェリー場より飛び出して隣家の外壁エアコンダクト管に刺さりました。的面防矢壁(高さ3.6m)より後方30m・横9mの位置にある民家で、手首に力が入り上に暴発したための事故と思われます。

事例2

発生日 平成 ~~2025~~ 年 7月 13日

某弓道場内にあるアーチェリー練習場での的までの距離は50mあり矢は、高さ7.36mのフェンスを飛び越えて道路を挟んだ民家の網戸に突き刺さりました。コンパウンドのDループ切れによる事故と思われます。

全日ア連総務第13-021号
平成 ~~2025~~ 年 7月 23日
全日本アーチェリー連盟
会長職務代行者
島田 晴男

アーチェリー場より矢が飛び出した件に関する事故報告書

アーチェリー部

事故発生日時 平成25年7月10日 16時20分

発生場所

事故報告

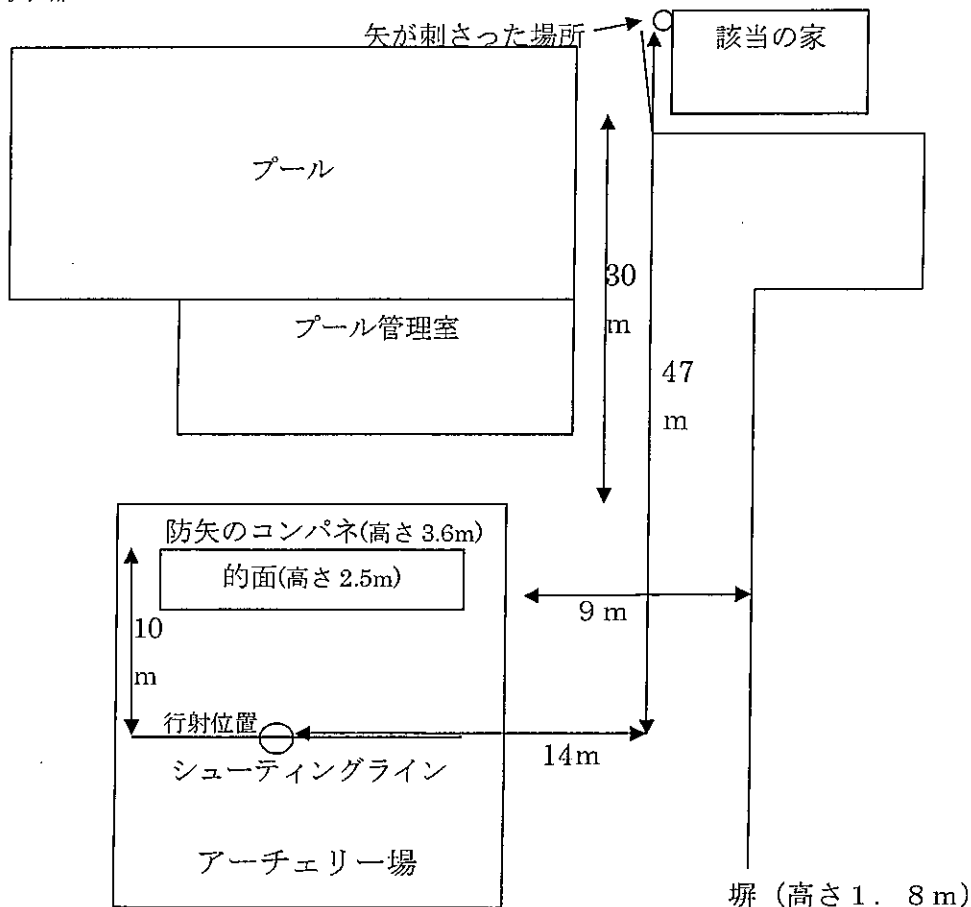
アーチェリー部1年生男子部員が射た矢がアーチェリー場より飛び出し、隣家の外壁のエアコンのダクト管に刺さったもの。

行射位置は的面より10m、3.6mの高さの防矢板より12.5m。的面に的紙は着けていなかった。隣家の位置は校内射場よりシューティングラインから見て防矢板から30m右後方、刺さった場所は外壁約5mの高さのところである。

男子部員は、4月から始めた初心者で、弓は実質22ポンド程度の弓を使用していた。フルドロウしてから畳をねらっていたが、手首に力が入って上にうってしまった。発生時顧問は校内にはいたが現場にはいなかった。

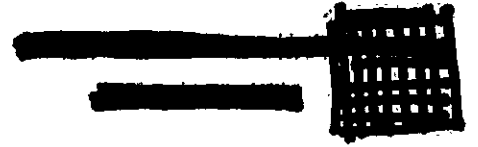
事後として、矢発見後すぐに管理職に報告、顧問2名、該当生徒と謝罪に行き、翌日学校長、教頭、顧問で再び謝罪に行った。ダクト管については弁償。アーチェリー場については使用を控えている。

《見取図》



13-04
平成25年7月20日

(公社) 全日本アーチェリー連盟
副会長 島田 晴男 様



県内射場での事故について (報告)

この度、県内の射場にて発射された矢が民家に刺さる事故が発生しましたことを報告いたします。

去る7月13日(土) 17時頃 [redacted] 体育協会運営アーチェリー練習場で60歳男性 [redacted] アーチェリー協会会員が50mを練習中、コンパウンドを引き分け時にループが切れ、高さ4mの的場の上の同2mのフェンスを越えて約30m先民家の網戸に突き刺さった。幸い網戸を破り戸板で止まり人的被害はありませんでした。

これを受けて [redacted] 体協は安全性が確認されるまでアーチェリー使用を禁止。施設の構造などを委員会で検討することになりました。

原因は弓具の整備不良と引きおこし時に弓を的に対して水平に引き分けできていないからと思われます。この動作は、競技する者としては事故防止の為、再三指導されているものであります。

[redacted] アーチェリー協会は、この事態を重く受け止め今一度、各支部に対し早急に安全指導を発したいと思えます。

以上

